

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[39]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[40]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[8]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[27]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[2]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	バイパスの第2通行帯を南進中、 前方車両が	
経過2		急ブレーキをかけたため、左にハ ンドルを切っ	
経過3		たところ、第1通行帯を走行中の 3tトラックの	
経過4		荷台に接触したもの	
経過5	当事者A	通信指令課に事故発生時の報告 及び救急隊の	
経過6		出動要請を依頼	
経過7	当事者A	警防グループ係長に事故状況を 報告し、中央	
経過8		署副署長外1名が現場確認・調 査のため出向	
経過9	当事者A	警察署に通報	
経過10	当事者C	救急車に同乗し、傷病者を搬送	
経過11	当事者A・B	事故現場の対応	
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

日常から訓練等を積み重ね、あらゆる現場活動に備えておく事が重要である。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

隊長個人として、安全確認の明確な指示の不徹底があったため、今後は細心の注意と指示の徹底を図り、事故防止に努める。

事故発生現場付近見取図

